

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和 6 年度病害虫発生予察防除情報 第 7 号を發表します。

巡回調査や予察灯調査において、トビイロウンカの発生が確認されています。圃場内での発生状況に注意して、必要に応じて防除を実施するようご指導願います。

令和 6 年度病害虫発生予察防除情報 第 7 号 トビイロウンカの発生状況と防除対策について

- 1 対象作物 水稻（普通期栽培）
- 2 病害虫名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生状況について

- (1) 県内 3 か所に設置している予察灯において、加西市では 7 月 1 日に雄成虫 1 頭が誘殺され、過去 10 年で最も早かった（発生予察防除情報 第 6 号（7 月 19 日発表））。また、南あわじ市でも 8 月 26 日に雌成虫 2 頭が誘殺された。
- (2) 8 月下旬に実施した水稻巡回調査において、発生地点率が 6.7%（3 地点/45 地点）となり、昨年^しの同時期（地点率 0%）と比較して高く、県内で広く発生が確認され、増殖型である短翅型雌成虫（写真）の発生もみられている。
- (3) 農業改良普及センターが実施している 8 月の発生調査において、阪神、北播磨及び西播磨地域でトビイロウンカの発生が確認されている。

5 今後の発生予想について

気象予報によると、今後 1 か月の気温は高く推移すると予想されており、トビイロウンカの生育が早まって、さらにもう 1 世代経過する可能性があることから、これまで低密度であった場合にも、坪枯れ被害につながる恐れがある。

6 防除上の留意点

- (1) 出穂期にカメムシ防除などの殺虫剤散布を実施していない圃場においては特に注意する。
- (2) 圃場内で局所的に存在するため、発見には広範囲を観察する必要がある。稲をかき分けて株元を目視すると確認しやすい。少なくとも 3 カ所（計 100 株）以上の株元をよく観察する。

- (3) 農薬を用いる際の発生密度の目安は収穫まで1～1.5か月の場合、成・幼虫の密度が株当たり2頭以上、収穫まで1か月以内の場合、成・幼虫の密度が株当たり5頭以上である。
- (4) 卵期間は薬剤の効果が期待できず、トビイロウンカの卵期間は5日以上と長いことから、幼虫の出現を確認してから薬剤処理を行うことが望ましい。
- (5) トビイロウンカは株元で増殖するため、薬剤が株元まで届くような薬剤の選定と処理方法に配慮する。無人航空機等による散布では薬液が株元に到達しにくいいため、十分な効果が得られないことがある。粒剤を使用する場合は、処理後の湛水状態を少なくとも数日間保つようにする。粉剤、液剤を使用する場合は、薬剤が株元に十分到達するよう散布する。
- (6) 薬剤を使用した場合でも、カーバメート系、有機リン系、ネオニコチノイド系の一部など薬剤によっては感受性が低下しているものがあるので、使用後も圃場内の様子を十分に観察して対策を行う（参考 松村正哉（2015）：植物防疫69：13-17、https://jppa.or.jp/archive/pdf/69_01_13.pdf）。
- (7) 薬剤については、前項とともに、地域の防除暦や農作物病害虫・雑草防除指導指針等を参考に選定し、収穫前日数にも留意して農薬使用基準を守る。



写真 トビイロウンカ

左：雌成虫（長翅型；体長4～5mm）、中：雌成虫（短翅型；体長3mm、翅が短く、卵で肥大した腹部）、右：幼虫

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>

* 農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* 兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)にて情報発信中。

フォローをお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshu)

